

グループホームにおける地域との関係性づくりの一例（実際の事例より）

※以下の事例は、あくまで地域との関係性づくりのきっかけとなるようにお示しするものです。地域の方と顔と顔の見えるつながりを構築した後も、利用者の方が地域の一員として生活できるよう、様々な機会を捉えて、日々地域との交流を積み重ねていくようお願いいたします。

- ・ 町内の運動会に参加することで顔を知るきっかけとなり交流のきっかけとなった。その後、学区の防災訓練に参加すると学区の会長さんに声を掛けてもらえた。学区の防災訓練に参加することで地域の皆様に声を掛けていただけるようになった。地域主導のイベントへ参加することがきっかけ作りとなっている。
- ・ サービス管理責任者が、地域の町内会、消防団に入団し、地域の清掃活動や消防団の活動に参加することにより、地域との関係が良好になり、地域のお祭り、盆踊りなどにも参加をするよう声がかかる関係になっている。
- ・ グループホームの利用者と職員が、公園清掃など地域のイベントに積極的に参加している。また、地域住民が職員やボランティアとして日頃からグループホームに関わっている。
- ・ 町内会に加入し、地域の防災訓練や清掃活動に参加することで、地域との連携を強化している。これにより、非常災害時の円滑な連携や障害者理解の促進が図られている。

（その他、保護者との関係性づくり）

- ・ 月に1回保護者会をグループホームの食堂で行うことで、家族がグループホーム内を見て、職員とコミュニケーションをとる機会がある。また年に1回は保護者の希望のテーマで研修会を行うためグループホーム内を研修の講師にも見てもらい、保護者や職員が悩みを相談する機会もできている。